

## 第37回電気通信普及財団賞

### テレコム学際研究部門 総評

第37回テレコム学際研究賞、テレコム学際研究学生賞に多数のご応募をいただき有難うございました。

当財団ではこれまで、電気通信普及財団賞としてテレコム人文学・社会科学賞（同学生賞）およびテレコムシステム技術賞（同学生賞）の表彰を行ってまいりました。一方、研究調査助成に関しては、この2つの分野以外に「両分野にまたがる」分野を設けて助成をしてまいりました。近年、電気通信普及財団賞の応募作品の中にも「両分野にまたがる」作品として評価をした方が良いと考えられる作品が増えてきたため、「両分野にまたがる」分野を表彰する賞を創設することとしました。この賞の名称に関して、表彰専門部会委員参加の下、内部で検討し、「テレコム総合科学賞」「テレコムユニバーサル科学賞」「テレコム複合領域賞」「テレコム技術社会普及賞」などの案が出されましたが、「テレコム学際研究賞」に落ち着きました。賞の名称、募集要項、審査内容等、準備が整ったことから、2021年度から応募を開始いたしました。

この賞の第1回の応募に対しては、本賞34件、学生賞9件の作品が寄せられました。これらが扱っている内容は、電気通信技術あるいはもっと広く情報通信技術が社会経済のマクロ的な側面のみならず、われわれの生活等ミクロな側面に与える影響の分析、あるいは、社会的な要請を背景とした教育・医学・防災分野などへの技術開発や応用などきわめて多岐にわたっています。また、作品の内容から情報通信技術が分析手法そのものにも強く影響を及ぼしていることが読み取ることができます。

応募作品について厳正に審査を行った結果、2021年度は本賞の入賞作品を3作品、奨励賞を2作品、そして学生賞は最優秀賞を1作品、奨励賞4作品を選びました。これら受賞作品以外に、そのメッセージ性を高く評価して、2作品を特例表彰することにいたしました。

この賞の第1回目で学生賞に最優秀賞を出すことができたことは望外の喜びであり、テレコム学際研究賞が広く認知され、今後、多くの作品が応募されることを期待しています。

■テレコム学際研究賞

◆発表形態

学会誌、雑誌等	書籍	書き下ろし (博論等含む)	その他
26	5	2	1

◆著者の所属

大学	研究機関	大学+研究機関	大学+テレコム企業 (研究所含む)	その他
20	2	2	2	8

◆言語

和文	英文
10	24

■テレコム学際研究学生賞

◆発表形態

学会誌、雑誌等
9

◆言語

和文	英文
3	6

◆著者の所属

大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)
3	6